



発行所 飯田市竜丘公民館  
編集人 報委員  
印刷所 龍共印刷株式会社  
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,791人
男子	3,339人
女子	3,452人
世帯数	2,081戸
(13年2月末現在)	

# 教育・文化と交流の拠点 新公民館に完成



## この上ない感謝と喜び

建設委員長 原 寛

平成五年から十年近い歳月をかけ準備が進められてきた新公民館が、いよいよ完成の運びとなりました。今後は備品購入や環境整備、五月四・五日に予定される記念行事の準備が大詰めを迎えます。

竜丘の地区にとって、新公民館の建設は永年の念願でしたが、いよいよ完成の運びとなりました。平成五年に建設委員会が設立され準備に入ってから、幾多の問題を乗り越え、今日を迎えたことに深く想い致すところでございます。建設決定をした市当局、公民館用地として同意をいただいた地権者の皆様、建

設推進に積極的に努力され、そして歴史建設委員の皆様、そして地域の皆様のご協力に心より感謝を申し上げます。新公民館の延べ床面積は千七百平方メートルと現施設の二、五倍の広さで、松尾、伊賀良に次ぐ大型施設となりました。施設内容も建設委員会施設部会を中心に検討した結果を最大限反

映できたものとなりました。本体は鉄骨コンクリート一部二階建ての、モダンで、新しい建物となりました。太陽熱を利用した空調システム「パッシブソーラー」や太陽光発電を導入し環境負荷の軽減を図るほか、地元木材など天然素材による暖かみのある造りや、市内公民館では初めてエレベーターが設置され、利用者に優しい施設となりました。本体周辺は、百台余の駐車場と、芝や花木を豊富に取り入れた庭園を整備していくことになっていきます。消防分団本部も構内に設置され、防災の拠点として

## 期待に応えられる 施設整備に努力

建設副委員長 施設部会長 牧内 清志

新しい公民館の優美な姿が桐林前の原に浮かび上がるようにしています。基本的には「環境共生的で利用者に優しく、竜丘らしさがある施設」と考えてきましたが、これが一つ一つ具現化されたことは、これに携わってきた施設部の一人として感動的なことであり非常に嬉しいことです。市当局のご配慮と地域の皆様のご協力の賜物と深く感謝をさせていただきます。施設部会は平成八年から活動をして参り、各公民館

を視察した知識と地域の皆様の意見を糧として各部屋のレイアウト、設備品等について検討を進めてきました。施設整備費三千万円、備品費千七百万円、環境整備費千二百万円の予算の枠内で検討し、多少値段が高くても丈夫で長持ちすること、購入はできるだけ地区内を利用すること、また、若干の予算を残し、実際に活用してみても不備な点は順次購入すること、各部屋の機能が十分果たせるよう配慮す



ゆったりとした大ホール

も期待されます。小学校の隣接地という好条件でもあり、竜丘の行政、教育、文化の中心地としてまた世代交流の拠点としていつでも気楽に立ち寄っていただきたいと思います。なお、設備品や環境整備の充実のため寄附をお願いいたしましたところ、地区住民をはじめ、法人企業の皆様、東京竜丘会会員の多くの皆様から温かく積極的

ることを基本としました。館内の備品は大小千点を超えています。選定には利用する方や専門家の意見を聞き、業者からカタログや実物を取り寄せました。環境整備についても樹木や門石の選定など視察や専門家の意見を聞きながら検討して参りました。部会、小委員会、全体会議と回を重ね、時には一日費やしたり、深夜に及んだこともしばしばでしたが、完成した暁に地域の皆さんに満足いただけるようにと、委員の方々が鋭意努力して参りました。購入に当たっては地元商

## 「私たちの公民館」という 親しみのある運営を

竜丘公民館長 木下 陸奥

以上のような設備や備品購入、環境整備ができました。深く感謝いたします。今後さらに検討を深め、複数年かけ適切に設備品等を整備してまいります。最後に参りましたが、優良な設計施工をしていただきました。みずび設計、木下建設、山田電気、三笠設備ほか関係事業者の皆様方に深く感謝申し上げます。地区地元の強い要望と熱意によって、新しい公民館が建設され、いよいよ竣工開館する運びとなりました。大変な喜びであります。地権者の皆様のご協力と、建設に向けて熱心に取り組んだ方々、施設の充実に向けてをされ、浄財をくださった方々のおかげです。立派な公民館の姿に接し、感謝の念で一杯です。このような多くの方々のご好意とご努力を肝に銘じ、二十一世紀の幕開けにふさわしく、竜丘の発展のため公民館の活用と運営に誠心誠意努力をしていかなければならないと思っております。そこで近づく開館に向けて次のようなことを準備していきたいと思っております。



和室と木のテラス

まず、地区の方々や公民館を最大限活用していくために、団体グループ、サークルなどの新しい組織の立ち上げを今以上に支援していきたいと思っております。自分のしたい活動や趣味、新しいサークルの希望などお気軽に連絡してください。また、常に「私たちの公民館」という気持ちで大切に活用していきたいものです。このため利用者を中心とした「公民館活用グループの会(仮称)」を設け、研究していきたいと思っております。さらに、施設整備の充実と愛護を積極的に考えていくために、地域の団体代表者や関係者による「公民館を大事にし合う会(仮称)」を設け、活用上の問題の解

## 新公民館 竣工記念行事

五月一日(火)

市役所竜丘支所開所式 支所窓口業務を開始

五月四日(金)

一〇時～一時半

・テープカット

・竣工式典

・記念演奏会

・ピアノ披露

・一五時～一五分

・竣工祝賀会

五月五日(土)

九時～

・一般公開

・一時～

・人形劇鑑賞会

・一時～

・図書館お楽しみ会

・親子ふれあい体験教室

(工芸・工作等)

一五時～

・落語鑑賞会

一〇時～一七時

・喫茶・料理など

・煎茶・抹茶の教室

特色ある部屋を活用して子どもから高齢者まで、多くの人が訪れ、体験し楽しむことができるような企画を考えています。

決や設備等の充実を図っていきたく思います。多くのの人に来館していただくため、情報コーナーや展示コーナーは常に最新の状態にしておく必要があり、計画的に管理運営する担当係を置きたいと思っております。真新しいランドセルを背負った一年生のような初々しい気持ちをいつまでも持ち続けながら、しかも年数がたつにしたがって次第に『教育村竜丘』の風格がにじみ出てくるような、名実ともに誇りある公民館になるように、また地域の皆さんの期待に応えるため努力してまいります。

# 蛍の棲める里づくり 飯田市公民館大会で発表

「二十一世紀にどう入っていくか」をスローガンに、第三十八回飯田市公民館大会が、二月十六日に開かれ、「地域の文化を磨く、新世紀に輝くために」と題した記念講演がありました。

講演の終了後、各分科会に分かれて討議が行われました。様々な分科会がありましたが、第二分科会「地域の子どもたちを考える」では、駄科の塩沢義男さんから、「ホテルの棲める里づくりの会」の活動発表がありました。

「郷土の自然を愛し、生命の尊さと慈しみの心を養い、子どもたちに夢を」との想いから、ホテルの舞う里づくりを提案したきっかけから話を始めました。蛍がいた昔を思い浮かべながら、場所の選定やカワニナの採取と放流など今までの経過を話されました。

学校の先生方の呼びかけが必要であること、地域の人々の協力が不可欠であるなどの現状と問題点が報告されました。

結びとして、ホテルを消していくのも、ホテルを戻せるかどうかも大人たちにかかっている。健全育成が

最後に助言者の木下竜丘公民館長より、今回の討議の内容を、地域ぐるみで公民館を中心に本気で考えていくことが必要であるとの発言があり、分科会が終了

## 竜丘公民館に学ぶ

### JICA研修員来館

去る三月五日、竜丘公民館へ十四名の外国の方が研修に訪れました。

一行はバンングラデッシュ、インドネシアなど東南アジア、アフリカ、中米などの九か国の政府および地方自治体関係の若い職人で、自国の地域開発をどのようにしたらよいかという課題の研修のため来日しました。

先進国から理論と具体的な実践の様子を学ぶために竜丘公民館を選んできたのだそうです。

毎年、国際協力事業団

本場に必要なのは、大人たちである、強調されました。また、塩沢さんは、宮沢賢治の詩などの資料を使って、家庭教育のあり方について提言されました。

この分科会では、他に飯田アルプス塾の子どもたちを対象にした自然体験学習の事例を、パソコンとプロジェクターを使っての発表がありました。

分科会講演では、緑ヶ丘中学校湯沢教頭先生から、子どもたちに接しての体験談を交えながら、地域で子どもたちを核にした文化活動や、その活動の核になる人材づくりの必要性、家庭教育への支援を話されました。

最後に助言者の木下竜丘公民館長より、今回の討議の内容を、地域ぐるみで公民館を中心に本気で考えていくことが必要であるとの発言があり、分科会が終了

緒におほぎを作り、和やかな会食をして大変満足の様子でした。

どのように組織を運営するか、また人々がどのように心を寄せ合うか熱心に質問していました。

「竜丘の古墳」については、当日雪の舞う寒い天候でしたが、古墳公園の現地まで行き、実際に「馬背塚古墳」の石室にも入り、会長の下平隆司さんから説明を聞きました。

地域住民が、自主的に歴史の

物も残して、子どもたちに残していかなくてはなりません。

## 竜丘の古墳を大切に 子どもたちからのメッセージ

### 市民大学講座 第四講

去る三月九日、三十余名の参加者の中で、第二十二回市民大学講座第四講が竜丘小学校で開かれました。

今回は「竜丘の古墳を探る」をテーマに、地域学習として竜丘の古墳について勉強してきた竜丘小学校六年三組の子どもたちの発表を基に、子どもと一緒に竜丘の古墳について学びました。

六年三組は、総合学習の一貫として一年間古墳について勉強してきています。

文化財を大事にしている活動には驚きと関心を抱いたようでした。

発展途上国の皆さんが、住民参加の活動を熱心に研究されていることは私たちも学ばされました。

小学生のみなさんの発表の後、講師の下平さんから「よく調べ勉強してきて感心した。足を使って調べたのは大切だ。大人の人が十年ほど前、資料を作ったがみなさんの発表と変わらない」とのお話がありました。

その後、スライドで竜丘周辺の古墳や出土品の写真を映し、資料を見ながら詳しく説明されました。

竜丘には、他の地域と比べて



去る三月六日、毎回ユニークな活動で知られる「大人の学校」の第六十三回講座が、いつもより三回講座が、いつもよりやや少なめながら六十名の参加で開かれました。

## 区別と差別はその人の心 大人の学校

去る三月六日、毎回ユニークな活動で知られる「大人の学校」の第六十三回講座が、いつもより三回講座が、いつもよりやや少なめながら六十名の参加で開かれました。

今回は、緑ヶ丘中学校の湯沢正農先生を講師に「みんな仲よく、元氣よく」の演題で、人権問題について講義を受けました。

湯沢先生は、本土地質学が専門だったのですが、人権問題に興味を持ち、現在はその方面で活躍されています。

学級級の斉唱や、新入生

の紹介など始めの会に続き、講義が始まりました。

湯沢先生はまず、二十一世紀の合い言葉として、人権平和、環境の三つが重要だと訴え、中でも差別や偏見はあってはならないと強調されました。

社会の中では差別と区別の違いが複雑であることを、例をあげて説明しました。

例えば、「ジョン君は肌が黒いが、トム君は白い」「外国人の入居はおことわり。但し白人はよい」、前例は区別であり、後例は差別的な心を持って別である。また「マラソン

大会では、男子は十キロだが女子は三キロである、このように差別とも区別とも判断がつかない例もあり、それぞれの事柄について説明され、差別は心の傷みを生み出すものであることを話されました。

## 好評を得た発表会 コーラスグループ

去る二月十一日に、飯田市公民館のホールに於いて、「第二十五回公民館コーラスグループ発表会」が行われました。

今年には、「アニユスデイ」「七つの子」「水芭蕉」の三曲を、二十人の混声コーラスで発表しました。数少ない混声コーラスグループなので、他のグループの方々にうらやましがられているそうです。

講師の中村栄三先生から「混声により声音の幅が広がり、厚みも増している」「発声の仕上がりが素晴らしい」という講評を頂きました。

一同、喜びと自信を深めて、次の発表への意欲を高めました。

これを機会にコーラスグループの活動を皆さんに披露したいと言っていました。

この大会は、男女のソフトボールと、ママさんバレーボールの大会で各地区の公民館の分館対抗で行われました。

竜丘の代表は、分館対抗大会の優勝、準優勝チームで男子が桐林、駄科分館。女子が駄科、桐林分館。ママさんバレーは持ち回りです。

今年、時又分館が出場し

苦労様でした。

最後に、来月行われるお花見遠足の話しがありました。現在、百二十余名の生徒が学が「大人の学校」が、新公民館を拠点として、ますます盛り上がる様子が目に浮かびました。

